

令和5年5月8日

学校名 鈴鹿市立栄小学校

学校長名 山下 浩一

令和5年度 校内研究実施計画書

1 研究主題及び教科

研究主題	一人ひとりがもてる力を出し、つながり、心が響き合う授業づくり ～「互いのちがいを認めあい、 なかまとしてつながろうとする子ども/教師」をめざして～
教科・領域	(全教科・全領域)

2 主題設定の理由

本校は、津市河芸町と隣接する鈴鹿市の南東部に位置し、校区の東端は伊勢湾に面している。今年9月で創立149年となる長い歴史と伝統のある学校である。校区は比較的広く、おいしいお米が収穫できる穏やかな水田と、住宅地域とが混在している。地域の方々は協力的で、登下校の見守りや学習支援、読み聞かせ、花壇づくりなどのボランティアとしてたくさんの方が子どもたちと関わり、温かく見守ってくださっている。

児童数・園児数は減少傾向にあり、数年前より全学年が単学級となり、隣接する公立幼稚園も今年度より休園となっている。児童数が減っている一方で、特別な支援を要する児童は年々増加し、特別支援学級は今年度1学級増えて3学級となっている。

児童は、単学級で過ごしていることで、お互いによくわかりあい、助け合って学んでいる。異学年交流も日常的に行われ、学年を超えたつながりがうまれたり、関係が深まったりしている。この点が本校の児童の強みである考えられる。また、教職員は、「全職員で全校の子どもたちを理解し、育てていこう」という意識をもって指導に臨んでいる。

しかし、クラス替えがなく過ごしてきていることで、友達関係が固定しがちになったり、

友達のことを決めつけた見方で見てしまったりすることがある。多様な考え方に接する機会が限られていて、互いの「ちがい」を受け入れられない様子も見られる。この点は、本校児童の弱みであり、多様な考え方に接する機会を作り切れてこなかった我々教師の課題である。様々な人権課題に気づき、それらをなくしていこうとするなかまを増やし、行動できる人を育てていかななくてはならない。

児童を取り巻く環境としては、厳しい経済状況、複雑な家族関係、虐待につながりような養育環境、子どもにかかわる余裕のない保護者が多いなど「教育的に不利な環境」にある子どもが多く在籍している。子どもたちの言動や行動の背景を探り、寄り添いながら取組を進める必要がある。さらに、ここ数年、外国につながる転入生が急激に増加しており、彼らもまた教育的に不利な環境へと追いやられている場合が多い。外国につながる児童やその保護者の置かれている環境について、ビザや就労、実際の生活などについてもっと知る必要がある。

これまで本校では、自分の思いをうまく出せない、自分で考えて行動することが苦手という傾向があり、伝える力や聞いて受け止める力等に課題が大きかった。そこで、2019年度から2021年度まで、伝えたり受け止めたりする言葉を広げる手立てとして、文章に表すという主体的な活動が有効であると考え、国語科における「書く」活動に焦点をあてて取組を進めてきた。書くことに慣れ、抵抗感がなくなり、自分の思いを少しずつ書けるようになってきたなどの成果はあったが、以下のような課題も残った。

- ・自己肯定感が低く、自信がもてない。
- ・自分の思いや考えを言葉で伝えあう力が弱い。
- ・相手の意見を受け入れたり、互いに認め合ったりすることが苦手である。
- ・トラブルがあったときに自分たちで解決していくことができない。

こうした課題をふまえ、2022年度からは、国語科の研修で大切にしてきた「書く」活動で養われる力を自己表現や人とつながっていくための手段として継続して取り組みながら、「ちがい」を受け止めあい、安心して学びあえるなかまづくり・授業づくりを目指し、そのために、我々教師集団もお互いのちがいを良さととらえ子どもを大切にするなかまとなれるよう研究主題を設定した。

3 研究内容及び方法（具体的な手立てまで詳しく書いてください）

◆研究内容

教育的に不利な環境のもとにある児童を含む全員が、学級の中で生き生きと学習し、生活できるなかまづくりを目指し、一人ひとりを大切に授業づくりに取り組む。

めざす子ども像

- ・自分のよさに気づき、自分を大切にする子
- ・一人ひとりの違いを認め、尊重し合う子
- ・目の前の問題に気づき、自分たちで解決できる子

具体的方策

（1）互いのちがいを認め合うなかまづくり

なかまづくりとは、すべての教育活動の基盤となるものであり、どの子どもも安心して学べる集団を教師が意図してつくっていくことと捉えている。「なかま」とは、自分の思いやしんどいことをお互いに言い合える、受け止めあえる関係であり、単なる「なかよし集団」で終わらせるのではなく、子どもたちが差別はいやだという気持ちでつながっていて、差別やいじめ（につながりそうな出来事）に気づき、自分たちで解決しようとする（解決できる）集団と考えている。互いの思いや考えを伝えあい、受け止めあう経験を積み重ねながら、互いのちがいを認めあい、つながろうとするなかまづくりをしていきたい。そのために、次のようなことを大切にしていって進めていく。

- ・子ども同士のトラブル（＝自分たちで問題を解決していくチャンス）にいていねいに対応する。
- ・見続ける子を中心としたレポート研修会

学級の人権課題を明らかにし、見続ける子を中心としてなかまづくり・授業づくりを進めていく。「見続ける子」のまわりの子どもたちを変えていこうとする意識で授業や活動に取り組む。「教育的に不利な環境」のもとにある児童のしんどさに寄り添い、そのような厳しい環境にある児童がクラスの中に居場所をもてるなかまづくり、いじめや差別をなくしていこうとするなかまづくりをめざす。

- ・一人ひとりが安心して学べる学級づくり、授業づくり
- ・天栄中学校区人権カリキュラムに基づいた学年別人権カリキュラムの作成

(2) 教職員の人権意識の向上

子どもたちは教職員の姿をよく見て、そこから学んでいることも多い。私たち教職員がどのように対応しているかで、子ども同士の関わり方も大きく変わってくる。子どもたちの人権意識を向上させるためには、まず自分たちの人権意識を問いなおすことが必要であると考えている。子どもたち一人ひとりを大切にできているか、子ども一人ひとりの特性を理解しているか、特性を理解した関わり方ができているか、好ましくない関わり方が子どもたちに広がっていないかなどお互いによりよくなるためのアドバイスが言い合える教職員集団でありたいと取り組んでいる。

・人権研修会での職員研修

「なかまづくりについて」

「子どもたちとの関わり方について」

「外国につながる児童のおかれている現状について」

「部落問題学習について」

・学年部を中心とした授業公開研修

・互いに学びあえる教師集団

(3) 思いや考えを伝えあい、受け止めあう学習の充実を図る。

「書く」ことは、自分の考えを言語化することであり、書くことによって自分の考えを整理することができる。相手にどう伝えるかを考えたり、お互いの考えを伝えあったりする中で、新しい考えや視点に気づいたり、共感したりする機会となると考える。そうした体験を積み重ねていくことによって、自他の思いや考えの違いに気づき、自分とは違う考えを受け止められるようになって考えている。ちがいがあからこそ学びがより深く豊かになっていくと感じられるよう互いの思いや考えを伝えあい・受け止めあう活動の充実を図り、児童の豊かなつながりをめざしていきたい。

・国語科の「書く」単元、日記やふりかえりなど思いや考えを伝える学習の充実を図る。

・思いや考えを表すことが苦手な子たちのために、書く手立ての充実を図る。

児童が興味関心をもてる題材の検討

イメージマップ、付箋などを活用した情報収集の充実

ワークシートや構成メモを等の活用

事前支援、例文や定型文、書き出し文等の掲示など

・互いの思いや考えを伝えあい、受け止めあう活動の充実を図る。

伝えあい、受け止めあう活動の目的・相手・場面の設定などをはっきりさせて
取り組む。

伝えあい・受け止めあう活動のルールを各場面で設定し、徹底する。

「ちがい」が豊かさにつながるよう発見や共感などの視点を持たせて活動する。

(4) 各学年別のテーマで人権学習を進める。

1年生・・・**まわりの人との出会い学習**

(新しい友だち, 上級生, 栄小学校の先生たち, ボランティアさん, 地域の人
など)

2年生・・・**「いのち」, 誕生, 成長についての学習**

(自分や友だちの誕生, 自分や友だちの成長, 自分や友だちの成長を見守る
人たち, 生き物のいのちなど)

3年生・・・**自分たちにつながる「ひと, もの, こと」などの地域学習**

(校区探検を通して出会う「ひと, もの, こと」, 昔のくらしの学習を通して出
会う「ひと, もの, こと」など)

4年生・・・**高齢者福祉・「障がい」者福祉の学習**

(アイマスク体験や点字体験を通じた「障がい」についての学習, 陽だまり長
屋の人たちとの出会いなど) **障害者差別, 高齢者差別**

5年生・・・**多文化共生, 外国とのつながりについての学習**

(外国の人との出会いを通じた学習, 音楽や食などの文化体験や交流, 外
国との人的・物的交流の様子など)

外国人差別, アイヌ民族差別, HIV 感染者・ハンセン病患者差別

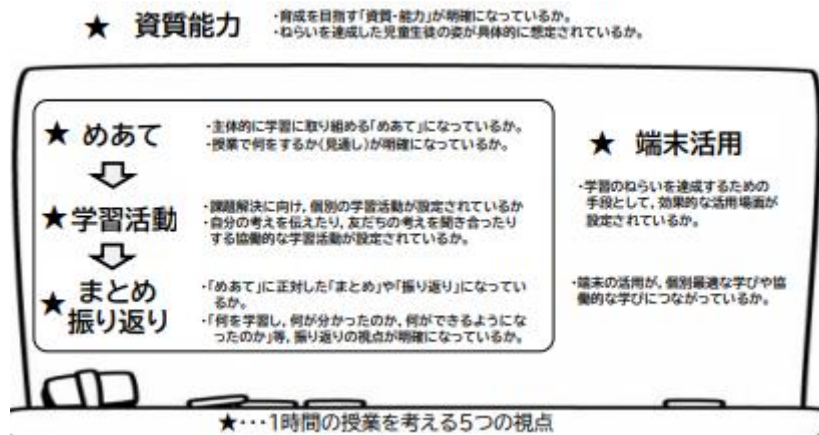
6年生・・・**歴史学習や人を大切にする営みの学習**

(人々のくらしの歴史や, 人々の生き方との出会い, 人権フォーラムを通じた学
びや一日入学での気づきなど)

部落差別, 人種差別, 在日コリアン差別

(5) 基礎学力の向上

- ・「授業力 UP5★」を意識した授業改善



- ・「読む・書く」ワークシートの活用
- ・家庭学習の充実・スクリーンタイム減少の推進
- ・読書習慣の定着を図る。

(6) 子どもを理解するための手立て

- ・子どもの家庭環境の把握
家庭訪問・日記・学童からの聞き取りなど
- ・異学年交流の充実
ふれあい班活動(ふれあい班遊び・ふれあい班そうじなど)
1・6年ペアでの日常的な交流
1年生と他学年との異学年交流
- ・子どものようす交流会(毎月)

日常的な取組

① 教師の共通理解を図る。

- ・「めあて」と「振り返り」を明示する。
- ・教育活動全体で言語活動(話す・聞く、読む、書く、伝えあう)を重視して取り組む。
- ・教師の正しい言葉遣いなど児童の言語活動がよりの確に行われるように、学

校生活全体の言語環境を十分に整える。

- ・語彙の習得を進め、表現力を高める。
- ・ワークシートやホワイトボード、付箋を活用する。
- ・ペア・グループ活動を充実させる。
- ・学習支援ボランティアを活用する。

② 学習規律を徹底し、学習環境を整備して授業効率を上げる。

- ・よい姿勢
- ・手の挙げ方
- ・あいさつの仕方
- ・立ち方
- ・すわり方
- ・箱型筆箱の定着
- ・掲示物の統一（聞き名人 話し名人 声の大きさ 学習用具の配置
よいしせい えんぴつのもちかた ことばのたからばこ）
- ・黒板周りはスッキリ
- ・整然とした教室
- ・辞書引きの習慣
- ・見やすいノートの使い方指導
- ・安心して過ごせる雰囲気づくり

③ 児童アンケートを実施し、実態を把握する。

④ 読書活動・学校図書館活用の推進を図る。

⑤ ICTの活用の推進を図る。

(1) 学習規律，共通理解をもつ。

- ①「めあて」を明示し、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。
- ②「ふり返り」を通して、自分の学びを見つめなおす。
- ③授業をはじめ教育活動全体で、言語活動を重視して取り組む。
- ④順序よく話すように指導する。
- ⑤友だちが話したことを自分の考えと比べながらしっかりと聞く。

- ⑥話し手に反応したり，共感したりする。
- ⑦言葉をたくさん学び，表現力を磨く。
- ⑧ワークシートやホワイトボード，付箋，ICT 機器を活用する。
- ⑨ペアやグループでの活動については，視点と手順を明確にし，共同して授業を深めていくことができるようにする。
- ⑩学習支援ボランティアを活用する。

(2) 授業における学習規律・学習環境を徹底し，授業効率を上げる。

- ① 全校で，「ピン・ピタ・ゲー」を合言葉にして，正しい姿勢を徹底する。
- ② 鉛筆の正しい持ち方ができるようにする。
- ③ 教室には「聞き名人」「話し名人」「声のものさし」「学習用具の配置」を掲示し，ルールの定着を図る。
- ④ 授業時の机上の整頓ができるようにする。（教科書，ノート，筆箱の配置）
- ⑤ 黒板の周囲に掲示物を貼らない。
- ⑥ 教室は，ファイル，雑巾等きちんと整頓し，整然としている。
- ⑦ 言えば聞いてもらえる安心感のある学級づくりをする。
- ⑧ 見やすいノートの使い方ができるようにする。
- ⑨ 箱形筆箱の定着，無地の下敷き。
- ⑩ 授業はチャイムで始まり，チャイムで終わるように努める。
- ⑪ はじめと終わりのあいさつは，きちんとした姿勢で，明るく元気に。
 - 日直 「今から，2時間目の算数の勉強を始めましょう。」
 - 全員 「始めましょう。よろしくお願いします。」
 - 日直 「これで，算数の勉強を終わりました。」
 - 全員 「おわりましょう。ありがとうございました。」
- ⑫ 配付物は「どうぞ。」「ありがとう。」
- ⑬ 返事は「はいっ。」

4 年間研修計画

一学期	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修会(研究主題・研究内容・研究組織・研修計画等) ・児童アンケート, 分析 1回目 ・学調, みえスタ(自校採点, 入力, 分析) ・人権研修会(助言者・アドバイザー招聘) 「なかまづくりについて」
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画作成 ・人権研修会(助言者・アドバイザー招聘) 「見続ける子について」 「人権カリキュラムについて」 ・校内研修会 「子どもたちとの関わり方について」 「全体会・分科会の役割分担について」
	6~7月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業(事後研), 公開授業(随時) ・人権研修会 「外国につながる児童のおかれている現状について」 ・算数教室
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・北勢人権 発表会実施要項完成(8月4日頃) ・人権研修会(講師招聘)「部落問題学習について」 ・全体研修会(学調, みえスタ分析) ・全体研修会(紀要・指導案検討)
二学期	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・開催案内 9月6日頃配布 ・研究授業(事後研), 公開授業(随時) ・全体研修会(全体会最終チェック)
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修会(全体会リハーサル) ・全体研修会(紀要完成・印刷)
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修会(指導案完成・印刷) ・北勢人権 研究発表会 11月22日
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート, 分析 2回目
	1~3月	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修会(2023年度の反省) ・みえスタ(自校採点, 入力, 分析) ・全体研修会(2024年度の方向性について) ・研修冊子とじ